

## 海外派兵に反対し、日本政府がアジアとの和解につとめ 世界の平和に寄与することを求める声明

「平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子  
と呼ばれる」  
マタイによる福音書 5：9

昨年 8 月イラクがクウェートに侵攻したことに端を発した湾岸地域における紛争は、和解のための国際的な多くの働きかけにもかかわらず、去る 1 月 17 日の多国籍軍によるイラクへの爆撃によって本格的な戦争に突入した。以来 1 ヶ月が過ぎたが、この間戦火の中にある民衆は、家を焼かれ愛するものを失いミサイルの襲来におびえる日々を過ごして来た。また安住の地を追われたおびたらしい避難民が生み出され続けている。兵士たちを送り出している国々において、その家族たちが心痛に胸を引き裂かれる思いで日々を送っていることであろう。歴史上かつてない大量の兵器の使用によって、貴重な資源が浪費され地球環境が破壊され続けている。核兵器や化学兵器の使用の恐れも依然として残されている。

わたしたちは今回の戦争が、「国連決議に基づく正義の戦争」という装いをもって開始されたことに疑問を抱かざるを得ない。戦争はいかなる理由によっても正当化されてはならないからであるし、またこの半年の間に平和解決への努力が十分しつくされたとは言いがたいからである。さらに人々は今回の戦争が決して単純な理由によって発生したのではないことに気付き始めている。石油確保のためにイラクへの軍事攻撃は正当化され、パレスチナ民衆を虐殺するイスラエル占領軍は黙認されるという二重基準に象徴される、いわゆるパレスチナ問題がその大きな位置を占めていることが、誰の目にも明らかになって来た。中東教会協議会が「この地域における二重基準と自己中心的な欧米の政策をただす必要があり、永続的平和をはかるために国連の諸決議をただイラク・クウェート問題についてばかりでなく、パレスチナ、レバノン、キプロスならびに中東全般についても直ちに実行すべきである」と訴えてきたことに真剣に耳を傾けるべき時が来たと言えよう。今こそ世界は、中東全域の平和のための国際会議を招集することに全力を傾けるべきである。

このような中、日本政府は 90 億ドル（約 1 兆 2000 億円）の巨額の戦費の支援と、避難民輸送の名目で自衛隊機を派遣することを決定した。わたしたちはこのことを始めとして、湾岸戦争に至る過程における日本政府の対応が、「日本を国際的に孤立させてはならない」という主張を後ろ盾にしてなされて来たことに危惧の念を抱かざるを得ない。見よ！日本はすでにアジアにおいて孤立している。なぜなら、あの 15 年戦争への反省を踏まえたアジアの国々との和解の努力を後回しにして、経済的利益のみを追い求めて来たからである。今回の対応にも国益という経済的利益を最優先させようとする意図が明白である。